


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 特任教授</p> <p>樋 川 隆 (ひかわ たかし)</p> <p>HIKAWA Takashi</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (公共政策) (山梨学院大学)
資格・免許	<p>小学校一級普通免許状 (昭 53 小一普第 458 号)</p> <p>中学校一級普通免許状 (社会科) (昭 53 中一普第 369 号)</p> <p>高等学校二級普通免許状 (社会科) (昭 53 高二普第 379 号)</p> <p>社会福祉主事 (A 第 15149 号)</p>
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>1979 年 3 月 山梨大学教育学部教育科学科社会科教育専攻 卒業</p> <p>1998 年 3 月 山梨学院大学大学院公共政策研究科公共政策専攻 修了</p> <p><職歴></p> <p>1979 年 4 月 山梨県庁 入庁</p> <p>1998 年 4 月 神戸親和女子大学教育専攻科 兼任講師 (2002 年 3 月まで)</p> <p>2008 年 3 月 山梨県庁 退職</p> <p>2008 年 4 月 山梨県職員労働組合 中央執行委員長 (2013 年 3 月まで)</p> <p>2010 年 4 月 神戸親和女子大学ジュニアスポーツ教育学科 兼任講師 (2013 年 3 月まで)</p> <p>2013 年 4 月 山梨学院短期大学保育科 教授 (現在に至る)</p> <p>2013 年 4 月 山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科 兼任講師 (2022 年 3 月まで)</p> <p>2015 年 4 月 健康科学大学健康科学部福祉心理学科 兼任講師 (2020 年 3 月まで)</p> <p>2019 年 4 月 甲府看護学校 兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2020 年 4 月 山梨英和大学人間文化学部 兼任講師 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>社会福祉 子ども家庭福祉 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援論</p> <p>子ども家庭支援の心理学 社会福祉特論 社会生活と健康</p> <p>保育実習指導Ⅰ (施設) 保育実習指導Ⅲ</p> <p>保育実習Ⅰ (施設) 保育実習Ⅲ (本学)</p> <p>社会福祉概論 (山梨学院大学健康栄養学部管理栄養学科)</p> <p>社会保障論 公的扶助 社会福祉行財政と福祉計画 (健康科学大学)</p> <p>保健医療福祉のしくみ 看護と法律 社会福祉 (甲府看護学校)</p> <p>関係行政論 (山梨英和大学)</p>
専門分野	児童虐待への児童相談所の介入論 児童福祉全般 社会的養護 里親支援
現在の研究テーマ	児童虐待への予防的介入 里親養育支援
競争的資金等の研究課題	該当なし
所属学会	<p>日本社会福祉学会 日本子どもの虐待防止学会 日本家族社会学会</p> <p>全国児童相談所研究会 山梨社会福祉実践学会</p>
メッセージ	<p>保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、これらはすべて対人援助の仕事です。いずれの仕事をめざす場合であっても、生活に密着した制度をどのように活用するかを考えることや他の専門職との連携が求められます。自らの専門性を高めるとともに他職種連携を意識しながら皆さんが対象とする方々に最も適切で十分な支援・サービスが提供可能となることを目指してください。</p>

教育	
2021年4月～2022年3月	
教育方針	
	対人援助職としての保育・教育者を意識した人材育成と養成を目指す。
授業	<p>授業の工夫</p> <p><社会的養護Ⅱ> クラス単位に演習として8回の授業であった。配付資料の最新のデータを読み解釈をしそれを言語表現することで現在の社会的養護の実態を理解することができるよう工夫を行った。また、データから読み取れる社会的養護関係施設、特に乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設の現状が理解できるデータを選定することに工夫を行った。また、各施設のデータ内容について、グループ討議を行い発表することで自らの考えを正確に表現すること、自分以外の見解に対する議論する方法等についても学習を深められるように工夫を行った。また、授業で使用した資料をベースに学生が発展的に学習することが可能となるようキーワードを示すようにし、その結果が最終的なレポートに結び付くよう工夫を行った。</p> <p><子ども家庭支援論> 授業資料を毎回作成し資料を教材として授業を行った。資料作成では、子どもの背景にいる保護者と地域に対する保育士としての支援の必要性が理解できるよう工夫を行った。また、対人援助職としての保育士像を学生に獲得してもらうことを意識した授業構成を行った。</p> <p>各授業での資料内容について、学生に指定した教科書で内容の確認を行うとともに、教科書に示されている引用文献や参考文献にもできるだけ説明を加え学生の参考になるよう心掛けた。</p> <p>保育士保育指針の第4章を中心とした授業内容であるが、4章以外の章との関連性等を合わせて説明を行い、指針上も家庭支援や地域支援が求められていること、保育士にソーシャルワーク力が求められていることが実感できる授業内容とした。</p> <p>2教室を Zoom でつなぎ隔週で教員が両教室に立つ方法による変則的な対面授業展開であったことから、教員がいない方の教室に、授業内容が正確に伝わるよう、短いセンテンスを使って伝える、資料の重要な部分を明確にするなど、視覚的にも工夫を行った。</p>
授業（つづき）	<p>授業の工夫（つづき）</p> <p><子ども家庭福祉> 授業では必要な資料を毎回配付し資料に基づき授業を展開することを心掛けた。また、資料内容は常に新しい情報が入るように配慮するとともに、重要な部分が明確にわかるように工夫を行った。</p> <p>保育士を目指す学生には、児童福祉法は身近なものであるが法制度であるが苦手意識を持つ学生が多いことから、保育福祉小六法を購入させ、授業で引用する条文等をその場で確認したり保育現場がこれらの法律や指針に基づいて展開されていることを明示し自ら法律や制度を学ぶ必要があることを意識化させることにも努力を行った。</p> <p>また、現代的課題である児童虐待への対応と山梨県の実態に関する理解を深めるために山梨県都留児童相談所の相談支援課長をゲストスピーカーに迎え山梨県内の状況が明確にわかるよう工夫を行った。加えて、児童虐待に対応した保育士のかかわり方の実例を提示し、学生が卒業後保育現場において体験した際に対応として何が必要なのかを学生自身が理解できるように事例検討を行った。</p> <p>2教室を Zoom でつなぎ隔週で教員が両教室に立つ方法による変則的な対面授業展開であったことから、教員がいない方の教室に、授業内容が正確に伝わるよう、短いセンテンスを使って伝える、資料の重要な部分を明確にするなど、視覚的にも工夫を行った。</p>

教育 (つづき)		
2021年4月～2022年3月 (つづき)		
授業 (つづき)	授業の工夫 (つづき)	<p><社会福祉特論></p> <p>冒頭の3回授業は、子どもを取り巻く環境についてと学生から寄せられた課題について、資料を作成し講義を行った。その後、児童の権利条約について制定の経過や条約の理念等について説明を行った。その後、条約の第1部に相当する第1条から第41条の内容を学生にグループ活動として検討させ発表させる形式で実施した。また、その際に児童福祉法との関係を合わせて検討するようにした。学生の発表した内容で十分でない場合は、教員が質問を行うことで学習を深めるよう工夫を行った。</p>
	授業改善のための取組	<p>①授業評価アンケートで目標達成率が低いものについては、提示資料の内容を見直し、適宜適切な資料提供に努めた。</p> <p>②学生からの質問等に対しては迅速、丁寧な回答し理解が可能となるよう助言等に取り組んだ。</p> <p>③増加し続ける児童虐待への対応については、行政の第一線で対応している担当者から直接講義を受ける機会を提供した。</p>
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p>(修了研究)</p> <p>テーマ設定に至るまでの支援として多くの文献を提供するとともに、学生のイメージを具体化する支援を行った。また、ケース検討を要する学生には、検討する方向性と内容についての助言を行った。文献研究の学生には、研究の基本的な手続きから研究の方法に至るまでの助言を行いながら対応した。</p>
	卒業レポート・修了研究テーマ	<p><修了研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待死亡事例をなくすための在り方について-心理的虐待事例の分析から- ・ヤングケアラーに対する支援策について-教育を受ける権利の保障- ・老障介護家庭における知的障害者の自立
課外活動	特記なし	
2021年3月以前		
主な教育業績	<p><家庭支援論教科書執筆></p> <p>2016年1月 「保育実践と家庭支援論」(勁草書房:井村圭壯、今井慶宗 編(共著))</p> <p><専攻科ゼミ活動></p> <p>2017年2月 専攻科ゼミ生が保育士養成協議会関東ブロック協議会主催「第30回学生研究発表」において修了研究の成果を発表した。</p>	

研究		
2021年4月～2022年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） ＜ケア労働＞のヴァルネラビリティと価値に関する実証的研究（1）－保育士のテキストデータ分析を中心として－ （共著）	2022年 3月	鶴見大学紀要第59号第3部 pp. 7-13
（その他） ケアラー支援 児童の権利守れ （単著）	2022年 2月	山梨日日新聞（時標）
（その他） コロナ禍における保育所の機能、2021 （単著）	2021年 6月	自治労山梨県本部自治研究集会 （紙面）
2021年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 保育実践と家庭支援論 （共著）	2016年 1月	勁草書房（井村圭壯、今井慶宗編）
（著書） 新社会福祉論 基本と事例 （共著）	2012年 11月	学文社（川池智子編）
（学術論文） 子どもを取り巻く山梨の環境 （単著）	2019年 3月	山梨学院生涯学習センター研究報告 （やまなし学シリーズ⑫）第33輯
（学術論文） 山梨県児童養護施設退所者調査報告書 ～退所者の10年間のあゆみ～ （共著）	2018年 5月	山梨学院短期大学地域連携研究センター、山梨県児童養護施設部会
（学術論文） 社会的養護事例の研究 （単著）	2015年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第35巻
（学術論文） 子どもの虐待と介入における「関係性」 （単著）	2003年 12月	山梨県医療社会事業協会
（学術論文） 支援費制度における社会福祉パラダイムとソーシャルワーカーの役割～アドボカシー、リエゾンをキーワードに～ （単著）	2003年 3月	山梨県医療社会事業協会

研究 (つづき)		
2021年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) 児童虐待防止法をめぐって～子ども成長と 人格の形成～ (単著)	2002年 4月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第5号
(学術論文) 福祉心理学～オウムの子どもの処遇～ (単著)	2000年 3月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第3号
(学術論文) ケースワーカーからみた子どもへの危機介 入 (単著)	1999年 3月	神戸親和女子大学生涯学習センター 紀要 第2号
(学術論文) 児童福祉における公的介入について～児童 相談所の処遇機能を中心として～ (修士論文) (単著)	1998年 3月	山梨学院大学大学院公共政策研究科 公共政策専攻
(その他) 山梨県医療社会事業協会の「これまで」と 「これから」 (単著)	2019年 5月	山梨県医療社会事業協会創立50周年 記念誌
(その他) 埼玉県内市町村子育て支援・保育事業に関 する調査最終報告書 (共著)	2019年 1月	公益財団法人埼玉地方自治研究セン ター 埼玉自治研 No. 52
(その他) 山梨社会福祉実践学会抄録巻頭言 (単著)	2018年 11月	山梨社会福祉実践学会
(その他) 子どもの養育力地域で高めよ (単著)	2018年 4月	山梨日日新聞 (時標)
(その他) Q&A で学ぶ! 成年後見制度—発達障害のあ るかたの権利や財産を守る成年後見制度や 日常生活自立支援事業 (共著)	2017年 1月	LD. ADHD & ASD (No. 60 : 1月号) 明治 図書

社会貢献

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2021年4月～2022年3月

- ・山梨県社会福祉審議会委員児童福祉専門分科会養護母子審査部会座長（現在に至る）
- ・山梨県ヤングケアラー支援ネットワーク会議座長（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉協議会監事（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉協議会広報委員会委員長（現在に至る）
- ・笛吹市社会福祉協議会役員選任・解任委員会委員長（現在に至る）
- ・山梨県医療的ケア児支援検討委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県社会福祉事業団役員選任・解任委員会委員（現在に至る）
- ・山梨県立うぐいすの杜苦情解決第三者委員（現在に至る）
- ・山梨県立育精福祉センター、山梨県立あゆみの家指定管理者選定委員会委員（2021年10月まで）
- ・令和3年度山梨県子どもの学習支援事業者選定委員（2021年5月まで）
- ・子ども守る山梨ネットワーク会議構成員就任（現在に至る）
- ・山梨県中央児童相談所相談支援課スーパーバイザー（現在に至る）
- ・児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修会研修講師（6月17日）
- ・山梨学院幼稚園児童虐待対応研修講師（8月27日）
- ・令和3年度放課後児童支援員認定資格研修会講師（9月15日・16日）
（放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護、子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ）
- ・南アルプス市社会福祉協議会市民後見人・生活支援員養成講座講師（11月19日）
- ・児童福祉関係苦情解決研修講師（12月14日）
- ・令和3年度民間保育所キャリアアップ研修講師（1月5日、6日、11日、14日、18日）（山梨県委託事業）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業研修（専門員、生活保護担当者）（1月25日）（山梨県委託事業）
- ・甲州市子育て支援課保育士研修会講師（2月17日）
- ・山梨県保育所等関係職員研修（2月22日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任支援員研修会講師（専門員・生活支援員）（2月28日）（山梨県委託事業）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任支援員研修会講師（新任生活支援員）（3月2日）（山梨県委託事業）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任支援員研修会講師（現任生活支援員）（3月7日）（山梨県委託事業）
- ・第9回子ども・若者フォーラム（山梨県青少年協会・山梨県教育委員会）（3月8日）
- ・YBS ニュース取材「ヤングケアラー支援」（3月11日、15日放映）

社会貢献（つづき）

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2021年3月以前（主なもの）

- ・令和2年度山梨県子どもの学習支援事業者選定委員（2020年5日まで）
- ・児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修会研修講師（8月3日）
- ・令和2年度里親登録前研修講師（8月21日、10月9日）
- ・令和2年度放課後児童支援員認定資格研修会講師（10月28日）
（課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護、子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ）
- ・南アルプス市社会福祉協議会市民後見人・生活支援員養成講座講師（1月22日）
- ・令和2年度中北教育事務所・中北地域教育推進協議会講演会講師（1月28日）
- ・第1回子ども守る山梨ネットワーク会議市町村部会研修会講師（2月12日）
- ・甲州市子育て支援課保育士研修会講師（2月16日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任支援員研修会講師（2月17日、3月16日）
（山梨県委託事業）
- ・令和2年度民間保育士等キャリアアップ研修講師（3月8, 9, 10, 19, 22日）（山梨県委託事業）
保護者支援・子育て支援の意義（8日）、地域連携（9日）、社会資源（10日）、相談援助（19日）、
児童虐待対応（22日）
- ・山梨県医療社会事業協会 会長（2015年度～2019年5月まで）
- ・山梨県富士・東部教育事務所、山梨県都留児童相談所研修会（教師向け）講師（6月27日）
- ・山梨県立育精福祉センター指定管理事業者選定会議委員（9月まで）
- ・山梨県児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修会講師（7月1日）
- ・山梨県峡南教育事務所・峡南地域人権講演会講師（7月9日）
- ・第69回社会を明るくする運動池田・新田地区講演会講師（7月10日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業新任生活支援員研修会講師（9月13日）
- ・山梨県社会福祉協議会生活福祉資金研修会講師（9月25日）
- ・山梨学院社会的養護フォーラムの講師選定、講師との交渉、日程調整、実施、総合司会（10月22日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業現任生活支援員研修会講師（10月28日）
- ・大月市保育所連合会研修会講師（10月31日）
- ・昭和町議会研修会講師（ローカルガバナンス学会）（11月11日）・令和元年度放課後児童支援員認定研修会講師（11月13日、14日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業専門員・生活支援員研修会講師（12月4日）
- ・山梨県社会福祉協議会日常生活自立支援事業専門員・生活保護ケースワーカー研修会講師（12月11日）
- ・山梨県中央児童相談所中学校指導主事連絡協議会研修会講師（12月12日）
- ・令和元年度第11回郡市指導主事会議研修会講師（2月10日）
- ・笛吹市公立保育所保育士研修会講師（2月18日、19日）
- ・山梨県社会福祉協議会令和元年度相談援助技術研修会（2月20日）

受賞 ※個人、所属団体

該当なし